

1日

《浪江町に「F-REI」発足》

政府は、浪江町に福島国際研究教育機構(F-REI)を設立した。同機構は、ロボット、農林水産業、エネルギー、放射線科学・創薬医療と放射線の産業利用、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信の5分野を研究テーマに掲げ、大学や研究機関等と連携し、高度な専門人材の育成、産業界への定着を目指す。

4日

《2022年度企業倒産66件》

帝国データバンク福島支店が発表した2022年度県内企業倒産状況によると、負債金額1,000万円以上で法的整理による倒産件数は66件(前年度比6件増)、負債総額は120億8,200万円(同16億9,900万円増)だった。

6日

《福島市観光客数、過去最高の772万人》

福島市がまとめた同市の2022年観光客入込数は前年比2.06倍の772万人で過去最高だった。2020年と2021年は新型コロナウイルスの影響で激減したが、2022年は大半の観光施設で客足が戻り、コロナ禍前の水準も上回った。4月にオープンした「道の駅ふくしま」は139万人が利用し、全体を押し上げた。

13日

《県内高卒就職内定率99.6%》

県が公表した、今春の県内新規高卒者の就職内定率(3月末現在)は99.6%で、前年同月と同水準となった。就職希望者3,726人のうち3,711人が内定した。このうち3,106人が県内就職で、県内留保率は83.7%と前年同月より1.0ポイント上昇した。

18日

《2022年度新車登録、9年ぶり増加》

国土交通省福島運輸支局が発表した2022年度の県内新車登録・届け出台数は70,968台で、前年度に比べて2,825台(4.1%)増えた。前年度比で増加するのは2013年度以来、9年ぶりとなる。同支局は、新型コロナウイルス感染拡大の影響が和らいだことなどが台数増加の背景にあるとみている。

19日

《水素エネルギーでタイヤ製造》

住友ゴム工業は白河工場で、国内初の試みとなる水素エネルギーを活用したタイヤを製造し、同工場でお披露目した。製造工程の熱源にはこれまで天然ガスを使用していたが、水素エネルギーに転換することで、年間約1,000tの二酸化炭素削減が見込まれる。

22日

《浅野燃糸事業所が開所》

浅野燃糸(岐阜県)が双葉町中野地区の復興産業拠点に整備を進めてきた双葉事業所「フタバスーパーゼロミル」を開所した。工場やタオルショップ、カフェなどを併設し、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの地域再生を目指す町の交流人口拡大と活性化を担う拠点となる。

24日

《ホテルハマツ、宿泊営業再開》

ホテルハマツ(郡山市)が、新型コロナウイルスや本県沖地震の影響で休業していた宿泊営業を再開した。再開は3年ぶり、全90室のうち22室の提供から営業を始めた。夏ごろの全室再開を目指す。

27日

《「ホープツーリズム」倍増》

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興や教訓を発信するため、県と県観光物産交流協会が連携して企画している「ホープツーリズム」で2022年度に県内を訪れた旅行者は過去最高の17,806人に上り、前年度の約2倍になったと県が発表した。県は、視察先となる施設の充実や教育旅行での教員間の需要の広がりなどが要因とみている。

《2022年度県産農産物輸出量319.4t》

県の発表によると、2022年度県産農産物の輸出量は319.4tで、前年度から112.1t減少した。主要農産物であるコメの産地間競争による輸出量の落ち込みが響いた。県は、県産食品の輸入規制が解除された米国など新たな輸出先での販路拡大を目指す。